

8 給食の残食



○ 指導の基本

- ・ 学級の実態や指導の目的を明確にする
- ・ 一人一人の子どもの心身の健康や成長にふさわしい食べ方になっているかを配慮する。

○ 配膳を工夫する

- ・ 給食当番が適量を考えて残らないように配膳できるように指導する。
- ・ 個々の体格を考慮して、必要な量を食べることができるよう盛り付けの仕方を工夫させる。

○ 食べ方を指導する

- ・ 主食とおかずを交互に食べると、どの料理も同じように食べることが出来ることを指導する。

○ 給食の時間の使い方を工夫する

- ・ 食べる時間を十分に確保するために、準備の仕方などを見直す。
- ・ 食べ始めの10分間または給食の時間終了前の5分間、食べることに集中できる時間を作る。

○ 食べ物を大切にすることを育む

- ・ 「いただきます」「ごちそうさま」という食事のあいさつの意味を知らせる。
- ・ 食べ物を大切にすることを育て、感謝の気持ちをもって食事をするようにさせる。
- ・ 調理員等、身近なところで働いている人の姿や思いを知り、感謝の気持ちをもって残さず食べようとする心を育てる。
- ・ 給食に使われている地域の産物や、郷土料理、行事食を知り、自然の恵みに感謝したり、食文化を考えたりすることで、食べものの大切さに気付かせる。
- ・ 世界で飢餓に苦しむ人々や、食べ物が十分になかった昔の日本に目を向けさせることで、食べ物を大切にしようという気持ちを育てる。

○ 好き嫌いせずに食べることの大切さを知らせる

- ・ 栄養教諭・学校栄養職員と連携し、栄養のバランスのとれた食事の大切さが分かるような指導をする。

○ 目標の達成を評価する

- ・ がんばりカードやチェック表を活用し、子どもが目標を達成できたら○をつけたり、シールを貼ったりする。

○ あいさつの意味

- ・ 「いただきます」: 私たちは生き物の命をいただき、自分の命を養っている。「いただきます」とは食べ物の命をいただくという意味であり、食べ物を粗末にすることは、命を粗末にすることである。
- ・ 「ごちそうさま (御馳走様)」: 食事を作るために、食材を育てたり、集めたり、料理をしたり、駆け回っていただきありがとうございます。という意味が込められている。